

高齢者の交通事故削減案の立案

～香南市を対象として～

1130434 加島 弘貴

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

現在、65歳以上の高齢者による交通事故が年々増加している。これに対して、警察や地方自治体などでは高齢者の交通事故の増加を食い止めるべく対策が急がれているが解決に至っていない。そこで、本研究では、高知県のある地域に絞って密着し、ヒアリング調査などを通して高齢者の交通事故を減少させるための削減案を提案しようとしたが、個人情報の問題やデータの不足で地域に密着できないことが分かった。そこで新たに、老人クラブへの加入が高齢者の交通事故を減少させることに繋がるのではないかとすることを軸に研究を進めた。その結果、高齢者の交通事故を減少させるには老人クラブの存在が大きいことが分かった。老人クラブへの加入者を増やすために、お年寄りの自尊心に配慮し老人クラブの活動が存在意義を感じられる組織になることが必要である。

2. 背景

近年65歳以上の高齢運転者による交通事故件数が年々増え続けている。その中でも交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は年々上昇しつつある。警視庁がまとめたH23年度のデータによると、交通事故による死者のうち、65歳以上の高齢者が51.3%と過去最高となった[1]。高齢化の進行が早い高知県もその傾向にあるのが現状である。その原因として高齢者の運動機能の低下や、視力、聴力などの衰えがあげられる。その対策として全国的に免許の返納やタクシーやバスの公共交通機関の割引などが言われているがあまり効果はない。今後高齢化社会になるにつれてさらなる交通事故の増加が懸念されることから、少しでも早い対策が急がれている。

3. 目的

本研究は、高知県の高齢者交通事故の現状を調査し、高齢者の交通事故の削減案を提案する。本研究では一般的な対策ではなく、実効性のある高齢者の交通事故削減案を提案したいと考えている。

4. 研究方法

本研究は、はじめに、高知県の高齢者交通事故を警察署の

協力を得て統計やデータを収集し現状を整理する。同時に高知県のある地域に絞って、実際に交通事故を起こした高齢者の方を警察や市役所などから紹介してもらい、お年寄りのライフスタイルに密着することで問題点を見つけ改善する。

5. 結果

現在、65歳以上の交通事故死者数の全体に占める割合が年々増加している。そこで高知県の地域に絞って見てみると、高齢者の交通事故件数が多い順に1位高知市2位香南市、南国市3位須崎市となった。この上位3つの地域で人口に対する高齢者の構成比率を多い順に並べると1位香南市2位南国市3位高知市となった。高齢者の交通事故も人口に対する高齢者の比率も香南市が多いことが分かった。このことから香南市野市町を対象の地域として調査を進めようとしたが、香警察署、香南市役所協力のもと、個人情報などの理由で実際に事故を起こした人を紹介することは難しいことと、事故件数はあくまで事故現場なので香南市出身ではない可能性もあることから地域に絞って調査することは出来ないことが分かった。そこで警察や市役所の方から高齢者の交通事故のお話を伺い老人クラブに加入している高齢者はアクティブで元気な方が多く、また定期的な交通安全教室などの講習会に参加していることで事故を起こす人も少ないのではないかとということに行き着いた。そこで本当に老人クラブへの加入が高齢者の交通事故を減らすことに繋がるのかを調査したところ、高知県ではH24年1月1日～11月16日現在まで全体の高齢者交通事故死者数は28件で、そのうち老人クラブ加入者が5件で約18%、未加入者は23件で約82%を占めている。このデータから老人クラブへの加入が事故の減少に繋がるという仮説が想定される。そこで統計学の検定を用いて計算したところ、老人クラブへの加入が交通事故の減少に繋がるという結果になった。[2]

6 メカニズムの分析

老人クラブへの加入が交通事故の減少に繋がるのは高齢者交通安全教室への参加が大きな役割を果たしていると考えられる。

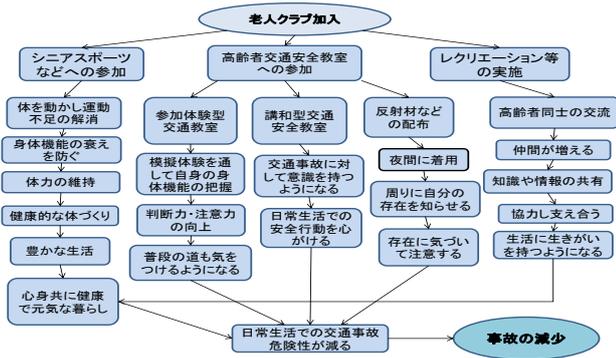


図 6-1 老人クラブへの加入が事故に繋がるロジックモデル
歩行者、自転車や自動車のルール、マナーを再度確認し交通事故を防ぐための安全行動を学習することは高齢者にとって効果的である。またシニアスポーツやレクリエーションを通して運動不足の解消、身体機能の衰えを防ぐ。また高齢者同士の交流や共に協力し合うことで生きがいや心身ともに健康で生き生きとした生活が送れる。これらのことが高齢者の日常生活での交通事故の危険性を減らすのではないかと考える。老人クラブへの加入と交通事故の減少にはどのような因果関係があるのかをロジックモデルを使って表した (図 6-1)。

7 老人クラブへの加入者を増やすために

老人クラブへの加入が事故の減少に繋がるという分析より、今後どのように老人クラブへの加入者を増やすかを提案する。老人クラブへの敬遠や加入しない理由としては、活動内容がよく分からない、まだ自分は元気、組織に縛られたくない、老人クラブの「老人」という名称に抵抗があるなどがあげられる。こうした理由からどのようにしたら老人クラブへ抵抗なく加入するようになるのかを考える。

7-1 高齢者の自尊心を満たす

お年寄りはまだ自分が老人であるということを自覚したくない気持ちが強い。日常生活の中で自分の自尊心に反して高齢者扱いをされる気持ちに対してカウンセリングを行い、高齢者と連想させないために、老人クラブの名称を変更するといったお年寄りの自尊心への配慮が必要だと考える (図 7-1)。また老人クラブの活動がお年寄りの自尊心を満たすものでなければならない。ボランティア活動や地域美化運動など老人クラブの活動が社会的貢献に繋がり、自分はまだ社会に必要とされている、社会の役に立てるといった存在意義を確認できる場所づくりが加入者を増やすことに繋がるのではないかと考える。

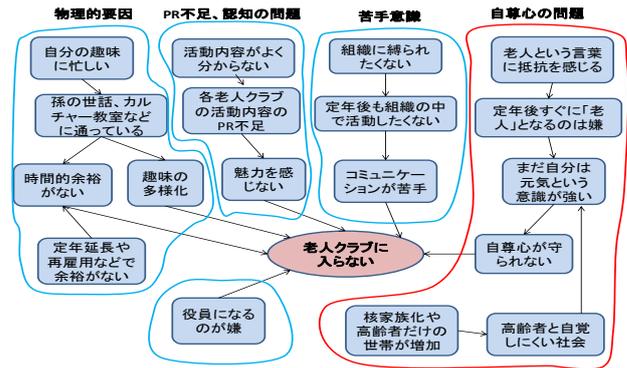


図 7-1 老人クラブに対する抵抗

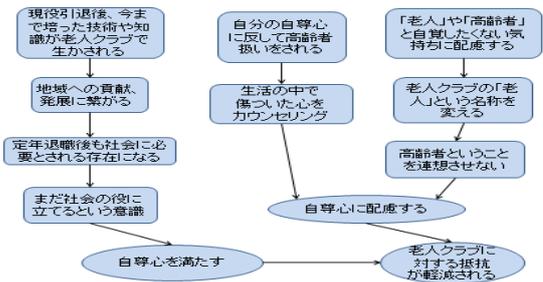


図 7-2 高齢者の自尊心

7-2 今後老人クラブにどんな機能をもたすか

高齢者の生活の中での心の悩みをカウンセリングする高齢者ケアストレスカウンセラーを有する行政と老人クラブが連携する。また地域の問題を解決し、高齢者の自尊心を満たす機能を持つシルバー人材センターと老人クラブの連携が必要であると考えます。

8 結論

8-1 研究の成果

本研究から老人クラブへの加入は高齢者の交通事故の減少に繋がるのかを統計学を使い、多面的に分析した結果、有効であることが分かった。

8-2 今後の課題

本研究で述べたことを実際に実行し、高齢者の交通事故が減少するのかを検証する必要がある。

参考文献

- [1] H23年版高齢社会白書 第1章 高齢化の状況・内閣府 <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/html/s1-2-6-02.html>
- [2] “統計解析のはなし” 著者 大村 平 日科技連

調査協力

高知県香南警察署交通課
高知県香南市役所 防災対策課
高知県老人クラブ連合会